

前回九月一日号で、犬をテーマにしたまちづくりについて取材した田中リポーター。

今回は更に踏み込み、「まちづくり」の本質に迫る意気込みを持って、リポートを展開してくれました。住みよい大館、魅力ある大館を見出すには、どうしたら良いのでしょうか。

人が移り住み、集まり、やがて街が生まれる。しかし、ただの集合地では、道路は雑然として不便なものになる。人口が増えるほどその不便さは増し、何らかの整備が必要となる。それが「まちづくり」の原点ではないだろうか。

ハード面からのまちづくりは行政の課題であるが、ソフト面からのまちづくりを考え、提言を行っている民間団体が「大館市にもいくつか存在する。その一つが「大館まちづくり協議会」である。

大館まちづくり協議会は、これまで「大館に二階建てバスを走らせる運動」や「大館能代空港誘致運動」、更に「秋田桂城短大誘致運動」等を積極的に行ってきた。この十月には昨年引き続き「わんわんウイークリー」と題した様々な事業を予定している。

そこで今回、同協議会の観光産業委員長、佐々木公司さんにまちづくりについてのお話を伺った。「昨年はずいぶんお話を伺った。昨年はずいぶんお話を伺った。」

「まちづくり」ってなに？

リポーター 田中 伯 (大町2区)

「犬なんでも自慢大会」と銘打っており、現在過去を問わず自分の愛犬について何でもかんでも自慢してしまおうという「トンデモナ

元且からNHKをはじめ各マスコミでハチ公のふるさと大館が取り上げられた。この機会を有効に生かせないものか、そう考えてわんわんウイークリーの構想が始まった。佐々木さんはこう語る。

今年も十月十四日のハチ公生誕祭を皮切りに、各事業が別掲のとおり行われるが、より参加者が楽しめるような企画とされているようだ。中でも二十九日に行われる「わんダフルコンテスト」はサブタイトルに「犬なんでも自慢大会」と銘打っており、現在過去を問わず自分の愛犬について何でもかんでも自慢してしまおうという「トンデモナ



佐々木さん(左)と田中リポーター

「面白かったから来年も」

大館には大きな祭りがいくつもあるが、一体どれだけの皆さんが本当に楽しいと思っただけで参加しているのだろうか。「今年面白かったから来年も参加したい。友達も呼んで一緒にいこう」「つまらねえな、ばがくせえ、もう行くのやめた」これがごく当たり前の反応だと思ふ。今年の大館大文字まつりでは、歩く距離が長くて疲れるからという理由で「大文字踊り」を二分割したと聞いた。大文字踊りは、確か以前は「万人踊り」と称していたと思う。いつの間にか万人が取れてしまったのだろうか。年々大文字まつりのにぎわいが寂しいものになっていくと感ずいているのは、私だけだろうか。この辺りに、まちづくり・まちおこしのヒ

ントが隠されているように感じた。秋田犬はアキタケン?

まちづくりには様々な手法がある。イベントで盛り上がるのとすもの、観光施設を整備し外からの集客で活性化を図るもの、外部から産業を導入するもの等々。大館には何が合っているのだろうか。大館まちづくり協議会や前回ご紹介したホワイトガーデン協会では、まちづくりを考える一つの切り口として、秋田犬や忠犬ハチ公を用いているのだが、ちよつと怖い話を耳にした。佐々木さんが出席したあるシンポジウムで「現在の子供たちのうち、何人が忠犬ハチ公を知っているのでしょうか」という発言があったというのだ。

「大館には有効利用されていない資源がまだまだあり、視点の置き所をしっかりと定めないと本当にもつけないことになる。将来の目標を掲げ、街に関心を持ち、個々が自ら参画して、魅力ある地域、活発な地域を創っていこう」

『わんわんウイークリー』

- 14日14時(JR大館駅前)
 - ・ハチ公生誕祭
- 28・29日10時～16時(秋田犬会館)
 - ・わんわん博物展
 - ・愛犬と私のそっくり写真コンテスト
- 29日(桂城公園)
 - ・秋田犬ふれあいコーナー(10時～12時)
 - ・しつけ教室(13時～14時30分)
 - ・わんダフルコンテスト
 - 犬なんでも自慢大会—(14時30分～15時30分)

と呼ぶ人が多数存在する。正しく呼ばれなくては秋田犬がかわいそうであろう。もっと多くの市民がハチ公や秋田犬をはじめとする地元のものに愛着を持つことが、今こそ必要なのではないだろうか。

LOVE ODATE

大館には豊かな自然や数々の天然記念物、伝統工芸など、全国に誇るべきものがたくさんある。職能短大、桂城短大、大館能代空港の誘致も成功し、ドームも産声を上げつつある。我ながら恵まれた街に生まれ、住んでいると思う。最後に、佐々木さんからの熱いメッセージをご紹介します。